

2004 四季 折々 Mutsu 思いつくまま

1. 神戸 ルミナリエ 2003 写真集 2004.1.11.
2. 山はごぶさた 久しぶりに 須磨アルプスに 2003.12.17.
3. 鉄のモニュメント 東京六本木ヒルズ (66ビル群) 2004.1.8.
4. 「だまし絵」 最近の6本木ビル回転ドアやトラック脱輪事故対処に思う 2004.3.1.
5. 日本列島 気候激変が繰り広げたドラマ 2004.4.30.
関東平野も大阪平野も 6000年前は海や低湿地 そんな昔の海岸線知ってますか・・・
太平洋側の里山傾斜地に咲くカタクリの花 「氷河期の生き残り」って知ってますか???
6. 三菱自動車欠陥問題について 2004.7.1.
何か変と思いませんか
7. 北海道 宗谷 猿払村 海の開拓宣言「いさりの碑」 2004.9.5.
8. 大阪縄文塾 小山修三氏と佐藤洋一郎氏の対話 2004.10.2.
「縄文の森 火と農耕・森に火をいれる」を聞いて
縄文の森と知恵に スーロライフを重ねて
9. 2004 秋 つれづれに 思うこと 2004.10.15.



「知恵は経験の娘。ただ 想像だけによって
自然と人間との間の通訳者たらんと欲した芸術家連を信じるな」
「自然の不可思議の通訳者は経験である。
自然は原因をもって始まり、実験をもって終わるが、
我々はその反対をとらねばならない。
我々は実験をもって始まり、
実験をもって 原因を探求しなければならない。
そこから、経験と相談しつつ、一般規則を引き出せる」



----- レオナルド・ダ・ヴィンチ



神戸ルミナリエ



神戸市街 全景

神戸・淡路大震災震災画
「神戸」尾崎和子作
須磨聖ヨハネ教会

ご無沙汰していますが、いかがでしょうか・・・

新しい年がはじまり、風向きが変わって 半導体など新ビジネスは景気が上向きとか
一方 イラク戦争が影を落とし、イランの大地震 今年こそは 平和への突破口が開ければ・・・



この時期 神戸では神戸淡路大震災のメモリアルの時一色

1995年1月17日午前5時46分 神戸を中心とした大地震 忘れられない出来事でした

神戸は今年震災後 9年を迎え 街には新しい息吹が芽生えていますが、この時期になると震災のことが 昨日のように思い浮かんできます。

神戸を離れていた後ろめたさを胸に 押しつぶされた家の間を縫って 真っ暗な須磨寺の道をとぼとぼ 自宅へ向かった時のこと本当に昨日のようで、ついつい話します。

12.12. 「神戸ルミナリエ」が始まりましたが、震災で火の消えた真っ暗な神戸の街に「ルミナリエ」の光が灯った時 その明るさ・その美しさにビックリし、なんと光のあることが良い事かと。

本当に「光・ルミナリエ ありがとう」・・・と。

あの時の感激は少し薄らぎましたが、いろんな場面を思い出しながら 今年も光の中を歩きました。

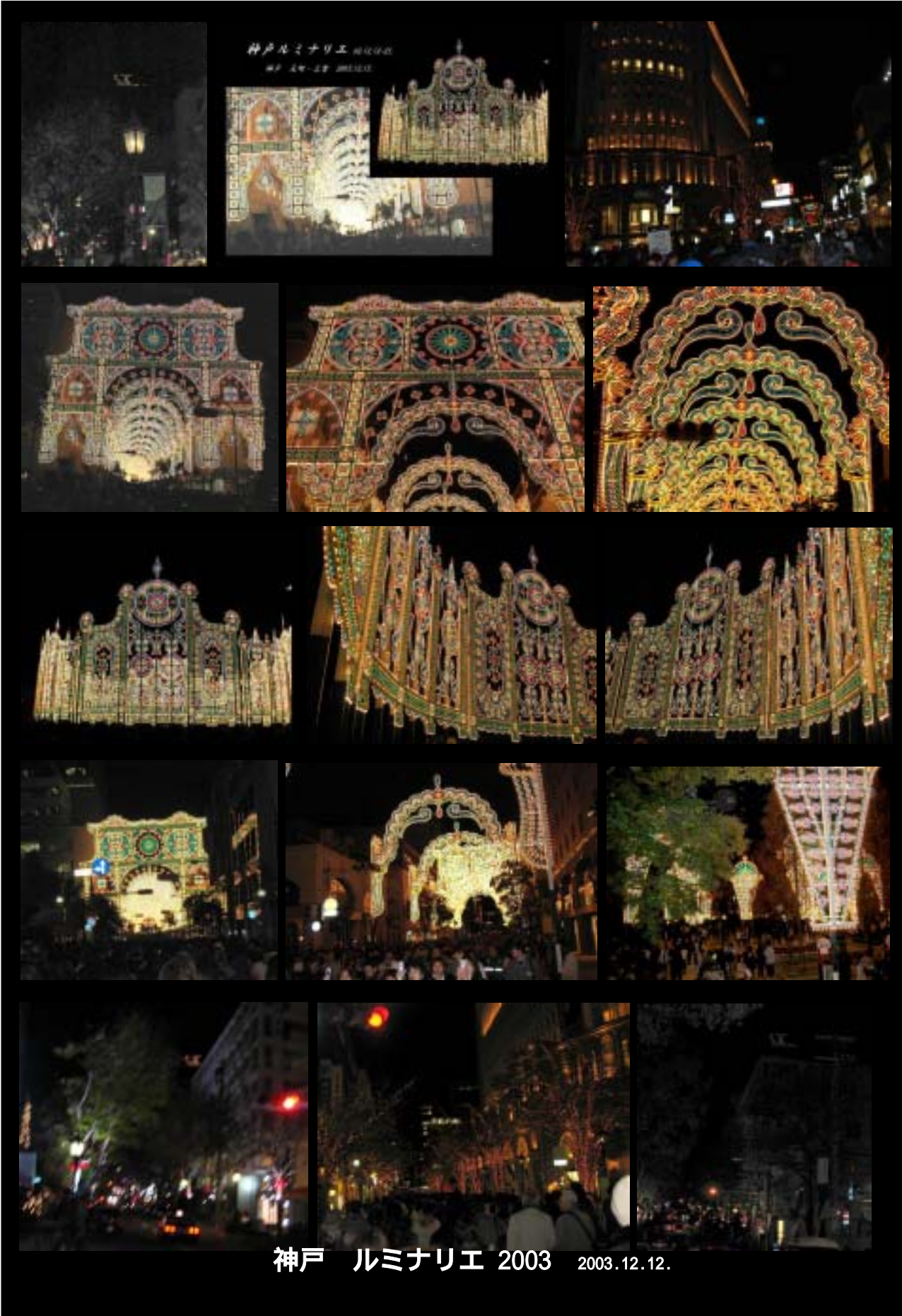
神戸の人は皆 同じでしょう。

でも 神戸の人にとっては 昨日の出来事 歩いていても それがよぎります。

昔を回顧するのではなく 「今どう生きているか」 つらい犠牲の中で得た連帯とノウハウが今 神戸のあちこちで語られています。この期間中 500万を超える人出だったと

神戸の人にとって「ルミナリエ」をスタートにこの時期は新しい年の初めとは別の思いの本当に大事な時となりました。もうあんな光景はみたくないと願いながら イラク戦争 そして イラク大地震 つらい光景がひしめいている。

時計が逆周りせぬよう また 小さくても 平和で明るい社会へ 風来坊の気安さを力に 自ら 一步踏み出さねば・・・と





須磨アルプス 縦走路
中央: 横尾山 背後: 鷹取山



須磨アルプス 馬の背 2003.12.17.

山へはちょっとご無沙汰 久しぶりに 須磨の山歩く程度

須磨アルプス 六甲山全山縦走の西の端 低いですが ちゃんと馬の背の岩稜もあって 六甲のようにドライウエイも家もなし。 まったくの山の中に入り込む。

須磨離宮の所から登り初めて一気に稜線の縦走路 岩尾根・馬の背を通って妙法寺に下りて約2時間。

縦走路から 元気を取り戻した神戸の街 そして変貌するわが街神戸山麓バイパス界限 そして 明石大橋から神戸空港埋立地を久しぶりに眺めました。



わが街 山麓バイパス妙法寺・若草町界限



明石海峡・明石大橋

須磨アルプスより 2003.12.17.

札幌藻岩山を毎日歩く人を見てうらやましく思いましたが、家のすぐ南にもこんな山あり。

家内からは「肥満防止にのぼれ」と急き立てられています。

神戸は今阪神大震災のモニュメント月間。暮れの神戸ルミナリエに出掛けて あの震災の記憶が みんな全く薄らいでいないのにビックリ。

1995.1.17.今年神戸にいますので 平和への祈りを重ねて震災の祈りに参加するつもり



須磨アルプスより 神戸市街地 全景



2004.1.15. by M. Nakanishi

東京六本木ヒルズ (66ビル群) 2003.12.5.

2003.1.8. 東京 六本木ヒルズ を紹介してくれた友達への返信メールより



昨年 12 月 東京へ行ったついでに 何かと話題の多い六本木ヒルズ 通称六本木六丁目ビル群(66 ビル)を見に行きました。クリスマスに近い夕方 多くの人でにぎわっていました。

地下鉄の階段にはこの地下でもインターネットがそのまま使えるハートを横にした「インテル」マークが並んでいる。この界限 IT ビジネス・情報通信・マスコミ・放送など新しいビジネスの集積地。「東京を変える 日本を変える」といわれている。

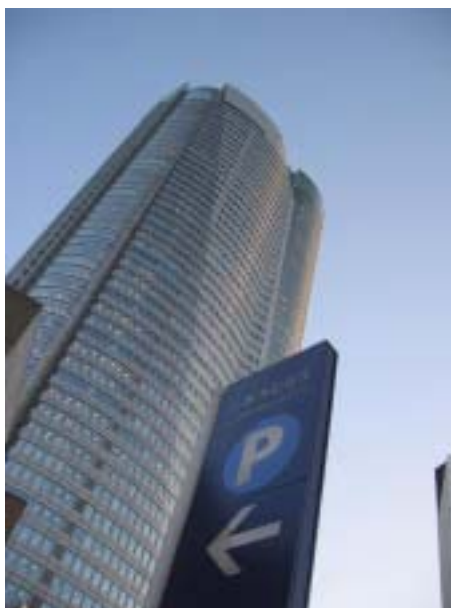
昨年完成した東京の高層ビル群と同じく 66 ビルの建設には私の会社の溶接材料も他社の材料と共に使われていまして、その材料展開には苦労しました。

一連のこれら高層ビル群建設に 軽量化が可能な強度の高い新鋼材(高降伏点高靱性鋼)が使われ、特に耐震性に対する配慮から、溶接部にも高いねばさ(靱性)と強度が要求され、新しく開発された高強度高靱性溶接材料が大量に、このビル群建設に使われました。

そんな関係で 汐留・品川・丸の内・大崎のビル群 気になって完成したら見に出かけ そして その一連の高層ビル群の最後が66ビル。どのビルも天を貫く大きさと美しさに見とれ、その華やかさに眼を奪われるのですが、「2003年問題」として巷でささやかれてきた周りとの調和がいつも帰る時には頭をよぎります。

まあ、そんな意味からするとこの66ビルはそんな不安感の頂点のビルか……………こんな考え方 時代遅れなのでしょうが……………

突如出現した巨大ビル いったんその中に入るとなんでもできるし、人があふれ 凄い賑わい。新ビル群が目指しているようにまさに 新しい街が出現した。ビルの中に 街並とともに人工の自然空間が作られ、熱気にあ



ふれている。

印象としては これは パビリオン ラスベガスの砂漠の町に突如したパビリオン ビル群ではないか・・・・・・・・

一度中に入れば 逆に外へ出さないようにするような内部のわかりにくさ。

迷路ではないが、外へ脱出しようとした時のわかり難さ。むしろ 外へ出にくくしている節も感じる。

独立・孤立 周辺との調和のない街づくり。ビルの中では 『やさしさも 人間味』を歌うが、外界をシャットアウトした独立・孤立主義 外に出ると冷たい風が吹く・・・・・・・・日本人の一番好きで それでいて 一番批判している 『村社会』の匂いを感じています。

外をシャットアウトした冷たさ ある種の関西人が東京に抱くイメージか・・・・・・・・

スーパーマーケット・マクド 銀行 そして シリコンバレー型 IT ビジネス など アメリカ型のビジネスモデルを競い、瞬間・瞬間のスピードで成功を鼓舞しているあいだに、50年・100年のスパンではみんな奈落の底を体現。新しいビジネスモデルを求めて もがいている。

成功が大きければ 大きいほど 回りに及ぼした影響は大きい。決して 自分だけでとどまらぬと。

東京にできた新高層ビル群の街になにか 新しいソフトが持ち込まれ、これらの街がセンターとなって 外への広がりのある街づくりの巨星にならないのか・・と。

そんなこと考えながら 見上げた東京タワー。非常にシンプルながら 暖かい 『赤』の照明に感動しました。

まあ 年老いた為に感じるさびしさか・・とも感じますが、何か違うとビル群を見上げました。

ずっと感じてきた東京新高層ビル群についての期待と後ろめたさそんなことを感じるまま書き連ねました。



2003.1.8. 東京 六本木ヒルズ を紹介してくれた友達への返信メールより
Mutsu. Nakanishi

Nさんが紹介してくれた 66 ビルの図書館・サロンが自己主張せず、地道にそんな輪につながるといいですね・・・・・・・・ 友達が紹介してくれた 66 ビルが始めた新しい息吹

東京にはなかった新しい空間 民間が行政の分野に踏み込む新しいソフト空間 必要かもしれませんが新しい社会を築いてゆく原動力かも知れません。

でも それは 『平和と調和』があつてこそ・・・・・・・・・・・・・・・・

友達がくれた 66 ビルの新ビジネスの概要 下記 友達のメールから紹介

大学の山仲間 N氏 のメールより (抜粋 整理)

- > 新年早々、新しい話題を提供したいと思います。
- >
- > 所は東京都心の六本木に、巨大な森タワーに代表される 六本木ヒルズ。凄い人気を博し、大勢の人で満ちあふれています。
- > しかし、この喧噪とは、まるで別の静寂な世界が、この巨大ビルの中にあります。
- >
- > 最上階に近い49階にある アカデミーヒルズです。そこに、新しい考え方で作られた図書館があります。
- > でも、普通の図書館と全く違うのです。
- > 昨年末、見学の機会を得ましたので、見聞したところを記しましょう。
- >
- > 第一の特長は、会員制です。二種類ある会員のどちらかに、会費を払ってないと、この図書館は使えません。 設置・経営体である森ビル(文化事業部が担当)の収益源は、この会費です。
- > 会員には、図書館の全域を使え、中でも、利用時には専用となるオフィスなどを利用できるオフィスメンバーと、そうでない コミュニティメンバーがあります。
- >
- > 前者は、年中どの日でも、24時間使えます。五人まで受け入れ可能な応接室も使えます。そうしたことを支える設備と体制が 取られているのです。 その分、会費は高く、入会金が三十万円で、月々の会費が六万円必要です。
- > 後者は、利用出来る空間や設備が限定され、時間も朝8時から夜11時まで限られますが、入会金は一万円で月々の会費は 六千円です。 中に、ライブラリーカフェがあります。
- >
- > また、同じ階にある六本木フォーラムには、大中小の会議室やホールがありますが、図書館(六本木ライブラリー)の会員は 自ら主催する会議などに使えます。 料金は必要です。
- >
- > もっとも、こうした有料図書館というコンセプトは、公立の図書館には受け入れがたいものであるらしく、> とうとうたる非難が寄せられていると伺いました。
- > 曰く、図書館は、公平、無作別、無料公開であるべきだと言うわけです。
- > 一方、見学して、目から鱗が落ちたという、公立の方の 感想もあるそうです。
- >
- > 民間企業が、寄付ではなく、自ら設置して有料で運営する図書館というものが、世界で初めて、日本に登場したと言うのは、この国の独創性に
- > 新たな光りが差し込んできたような 感じすら受けます。
- > 批判も大切ですが、建設的な思考や取り組みは、それよりまして大事なように思います。

以上 2004.1.8. N氏からのメール 抜粋

2004.1.8. Mutsu Nakanishi

最近の6本木ビル回転ドアやトラック脱輪事故対処に思う

自動車学校の教育訓練とあわせて

最近の痛ましい事故 トラックの脱輪事故 そして 6本木ビルの回転ドア そして 鳥インフルエンザ
 「同じ類例あった。 兆候あった。 会社は隠した。」と毎度お決まりの責任追及と責任のなすりあい。
 いつものパターン繰り返し。マスコミなど正義感よろしく無責任な責任追及の急先鋒。
 でも、 これどこか おかしい。

「兆候が出た時 類型が出た時に なぜ 日本では 安全改善・危険防止の処置に動かないのか」
 「なぜ 効率・当座の利益に負け、 責任回避 最大公約数サイドに傾くのか」
 この行動判断を断ち切る教育 インパクトこそが 原因究明と同じぐらい大事なのですが・・・・・・
 原因は日本の村社会の発想・横暴の多数決・

赤信号 みんなが 渡れば怖くない式の判断 を断ち切らないと。

多数意見が 「X」とダメだしであっても、 少数意見であっても

「チェック・採用」へ踏み込んでいく勇気とそれを認める風土を作らないと変わらない。

特に 最近の管理判断は益々 事なかれ主義 多数派の中に埋没していないでしょうか

この絵 どう見えますでしょうか・・・・・・・・・・



おばあさん??? 美しい美女???? さあ どうでしょうか・・・・

もう10年も前に 某半導体メーカーとビッグな共同開発のスタート時に集まったメンバーに出された問題
 どちらにも 見えるのですが、自分のその時の気持ち 周りの人の雑音でどちらかに強く引かれる。
 冷静に同じウエイトでどちらの顔も見る努力をしないと・・・また、隠れている顔を見抜く努力を。。とい
 われた。

私はこの絵知っていても いまだに 一瞬は一方の顔しか見えぬ。

どうも どっぷりとひとつの風土の中につかると隠れた顔が見えぬ。
先の問題もこんな中 日本人の風土の中に潜んだ問題なのではないか・・・
そのための訓練 風土醸成と共に隠れた顔があるとの認識をしっかりと行動パターンに植え付けることが大事
とつくづく思っています。

- 老いの習いでいった自動車教習所が安全運転の教育・訓練でこれを教えている。
そんな感じがしてならないので、ちょっと紹介します。

何時現目だったか 指導員からの質問 「事故を起さんためには なにが必要ですか・・・」
「教科書的には交通ルールと認知・判断・操作の技量そして自動車の性能や」と答る。

「50点や 肝心の事 抜けてる」と・・・指導員に言われました。
「う・・・ん 何が抜けとんねん・・・」とみんなだまってしまいましたが。。。

ちょっと 時間を置いて指導員
「危険予知の訓練と能力
たとえ見えてなくても 次に何がおこるかを予測し、対処する行動を起しておく。
重要なのは 同じパターンの認識と行動を叩き込む事 安全への意思判断行動だ。」
これが残りの50点と

うなっていました。指導員の言うのが正解。 すっかりうれしくなっていました。

「その場になれば 出来る」と思っているのですが、やっぱり駄目ですね。
路上運転教育なんて、まさにその判断実践と行動訓練の連続。
その根底にあるのが、徹底した「弱者保護」と「自分勝手に許さぬ円滑な交通」の判断理念
いやになるほど失敗しました・・・
最大公約数的判断も大事ですが、ルーツ対処 一次防災から二次防災まで
自己完結型の判断力とはっきりとした理念に根ざした行動の実践教育の重要性がかねてより気になっていま
す。
自動車教習所なんて・・・と軽んじてきましたが、その中味の実践教育は 今日本の中で失われつつある行
動パターンの植付けではないでしょうか。。。
先の痛ましい問題の対処パターンも根は同じと思っています。

会社で開発のメンバー 現場ラインで 「予知して考えよ 予知能力つける ルーツを考えよ」 「だれで
も判る予知管理」「具体的な予知・数値把握を」
とよく言っていました。 「行動実践のパターン実践訓練」を付け加えねば・・・と思っています。
そういえば 責任回避は行動を避ける典型。
アメリカや欧州で良くやる行動形式 「アセスメント」また 「予知訓練とルーツ対処のインパクト」 「iso
認定」も同じですが、最も重要と覚えてきます。
日本流の行動パターン脱皮しないと 益々変な世の中になりそうに思えて仕方なし。
さあ どうでしょうか・・・・・・・・・・・・・・・・

また ブツブツ です

太平洋側の里山傾斜地に咲くカタクリの花
「氷河期の生き残り」って知ってますか???

今 地球の温暖化が恐怖をもって話されていますが、今から約 6000 年前 「縄文の海進」と呼ばれる今より数度温度の高い時代があり、海面が今より数メートル高かったと云われています。

この「縄文の海進」以外にも日本列島は気象変化の激しい所。四季が形成されたばかりでなく、今までよりさらに温暖だった時代や逆に寒かった時代があり、この気候変化によってさまざまな日本の営みがあった事を「縄文の海進」を調べていて知りました。

知らなかった事いろいろ知りましたのでちょっと・・・・・・・・

- 太平洋側の里山傾斜地に咲くカタクリの花 「氷河期の生き残り」って 知っていますか???
- 関東平野も大阪平野も 6000 年前は海や低湿地 そんな昔の海岸線知ってますか・・・・・・・・
- 平安時代の貴族の家 あんなスケスケでも暖かかった
でも 疫病が流行して遷都 これが京都の始まり
逆に江戸時代は寒くて天明の飢饉などが起こりました

地球温暖化の未来シュミレーションまた今後の対応のヒントになるかも・・・・・・・・

日本沈没がささやかれています、どうなることやら・・・・・・・・

1. 太平洋側 里山の北傾斜地に咲く「カタクリの花」 これは氷河期の生き残り????

「カタクリ」は元来 日本海側多雪地域の里山で雪解けを待ちかねて美しい花をつける。

この雪国の植物が温暖な地域でも見かけるようになったのはわけがある。

寒冷化した氷河期に寒さを避けて雪国から関東以西の太平洋側低地にまで南下。

それが氷河期が終わって温暖化するとカタクリにとっては暑すぎ、一部は北国に帰り、一部は涼しい山地へ。また、低地に残ったものは北向きの斜面で涼しく地下水がじわじわしみだす夏涼しいところ丘陵地の崖下などでひっそり生きている。氷河期の生きた化石 カタクリが涼しい丘陵地の北斜面で場所ひっそり風に身を揺らしている姿はたまらない魅力なのですが、こんな生活の知恵によるとつゆしらず・・・・・・・・

近頃 群生地がどんどんへっているのも これまた新しい環境の変化か・・・・・・・・

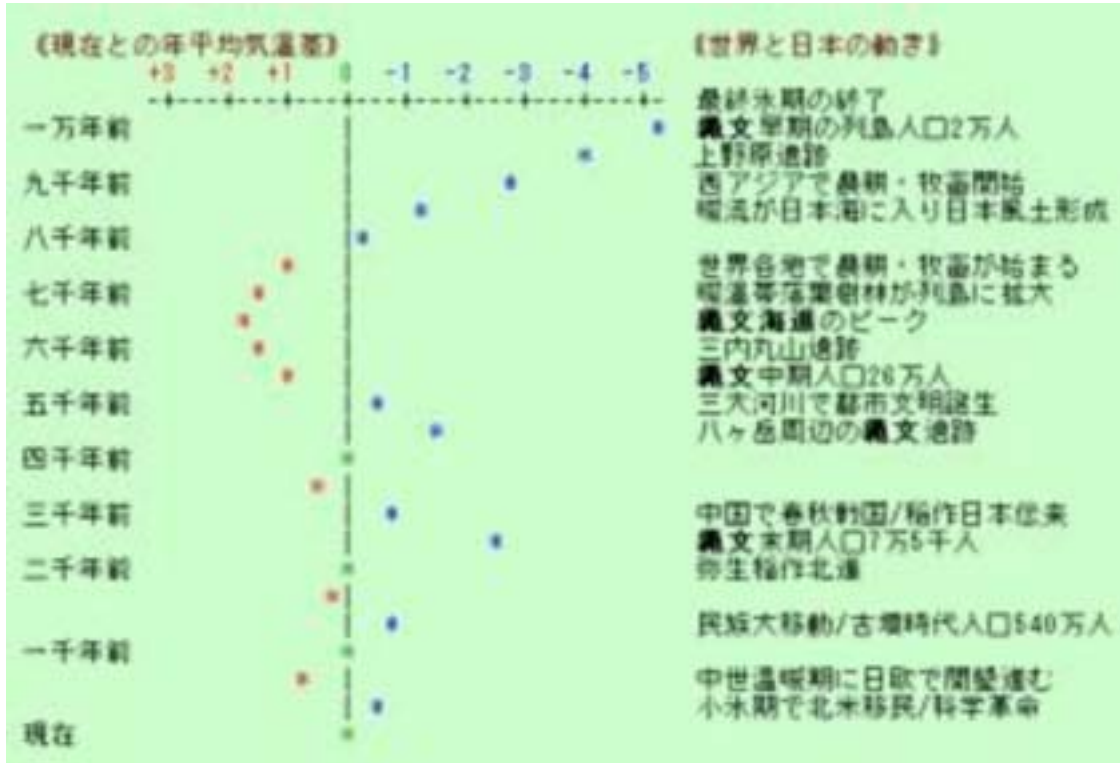


2. 縄文の海進 関東平野も大阪平野も 6000 年前は海や低湿地

そんな昔の海岸線知ってますか・・・・・・・・

地球はかつて何度となく寒冷化と温暖化を繰り返しかえし、日本アルプスにカールとして氷河の跡が残されています。でも、ヨーロッパのように日本列島全体が氷河に覆われ、すべての生物が絶滅すると言ったような事はなく、寒冷の時代でも夏には緑があふれ、花が咲き、多くの生物が日本列島にやってきたといわれています。

す。 寒い寒冷の時代（最終氷河期）が約 1.4 万年前に終り、今は間氷河期にあります。
 そして この間にも何度となく温暖・寒冷を繰り返し、多くの生物・人の営みも激変しています。
 現在の日本の源流といわれているのが、この「縄文の海進」。
 約 6 千年前の縄文前・中期の時代 日本列島では温暖化はピークとなり、氷河が溶ける事による海面の上昇はピークとなり、海岸沿いには深い入り江が形成され、そこへ激しい降雨によって陸から大量の砂が運ばれ平野・砂州・河口湖が形成され、現在の日本列島がほぼ形成された。



同時に 陸にはドングリなど豊かな木の実を生み出す落葉広葉樹(ブナ・栗など)の森が形成され、豊かな縄文の文化が花開きました。
 広大な関東平野も・大阪平野もまだ、海の中ですが、日本列島の骨格ができ、そして、関東平野も大阪平野も形成されてゆきました。



関東地方 縄文海進と沖積平野形成



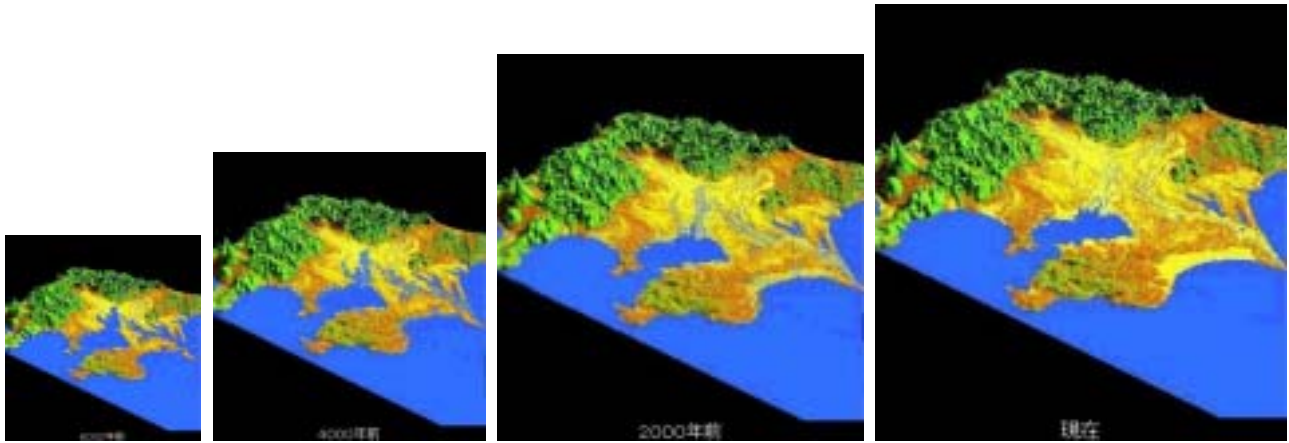
4000 年前



現在



現在の大阪・河内平野 近つ飛鳥葉室古墳群丘陵より
 大阪・河内 縄文改進と沖積平野形成



6000 年前 4000 年前 2000 年前 現 在

縄文の海進とその後の冷涼化・沖積平野の形成による日本列島の形成【1】

国土地理院シュミレーションデータアレンジ インターネットより



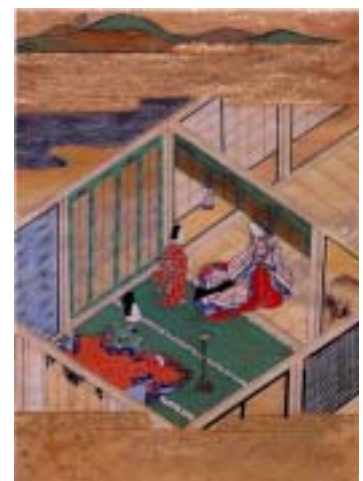
6000 年前 4000 年前 2000 年前 5 世紀・1500 年前 現 在

縄文の海進とその後の冷涼化・沖積平野の形成による日本列島の形成【2】

<http://www80.sakura.ne.jp/~agua/index.html> より

3. 平安時代 貴族はあんなスケスケの家でも暖かかった!!!

でも 疫病が流行して遷都 これが京都の始まり



平安時代 あの貴族の邸宅は なぜあんなにスケスケなのか? 寒くはなかったのか????

8-1 3世紀は中世温暖期と呼ばれる温暖な時期。平安時代の花見の時期も1週間ほど室町時代より早かったという。

この温暖化は大洪水・疫病の流行を招き、平安時代は「怨霊」の時代といわれるが、その原因もこの温暖化が原因という。桓武天皇の平安遷都も「怨霊」をおそれたためといわれる。

時代劇で見る江戸の町には雪が似合う でも寒くて 天保の大飢饉が起こった



一方 室町・江戸時代になると冷涼化が進む。時代劇といえば、コガラシ吹いて 雪の景色のイメージが似合います。

でも江戸時代には寒冷・大洪水の連続 宝暦・天明・天保の大飢饉が起こって……

これも 間氷河期の中の現象

今は温暖化が進んでいますが、自然現象に環境破壊が加わって……。

一体どうなるのか……

by M. Nakanishi 2004.4.29.

6.

三菱自動車 欠陥問題 パッシング 2004.7.1.

なにか おかしいと感じませんか……

この6月 1ヶ月 三菱自動車の欠陥車問題がセンセーショナルにパッシングが続いています。品質問題について 行政も他の自動車メーカーもみんな 手のひらを返したようなパッシング。同じ事が社内の技術現場でもおきているのだろう。

でも、毎度の事ながら パッシングしている他のメーカーも 行政もする事一杯あると思うのですが……。

なぜ ISO の品質システム 一番クレーム対応に敏感なこのシステムが動かないのか……

また 認証・QA は ??????

業界・国土交通省パッシングするばかりで、マスコミも含め、なぜ原因と結果についてクリアーな説明がされないのか……車の安全・品質という課題において パッシングではなく、当事者側ではないのか……

日本の村社会の典型 エスケープゴートを作って ほかを隠す。パッシングをしている強気の発言も裏返すとその裏にはたくさんの隠された問題があるとかんぐらざるを得ない。

トップメーカーはなぜ業界として助けの手を差し伸べないのか……

官庁とも技術も一番近い所にいるのに……

パッシングは強烈であるが、問題解明については何か 歯切れが悪い。

次々と三菱の欠陥が個別にほじくられている。

本当に三菱の車に限られた車の問題だけののだろうか……

もっと本質的な大型トラック全体にかかわるのではないか……

トラックというと直ぐ頭に浮かぶのは過積載の問題が浮かぶ。

何とか 三菱の車を場外にほりだし、沈静化させることをねらっているのか……

毎度繰り返される後手後手の官民一体となつての弱者切捨てのご都合主義の手法

メジャー・体制側と少数派の戦いのような気がして、三菱を応援したくもなる。もっとも 三菱にも本件が抜き差しならなくなるまで メジャー・体制側の論理の中で生きてきたと思いますが。

「品質・安全問題の取組を見れば 会社の姿勢が見える」と良く言ってきましたが、中味の議論と指導性のない口先だけの「安全第一」「品質重視」「顧客満足」

一番本質的中身・具体的な対応が生かされねばならぬ時代に リストラの進行で素人経営 掛け声だけにな

っているのでは・・・

指導者層の理念のなさ・貧困が本当に目につく時代となりました。

昔私が経験した同じような欠陥問題 某海外メーカーの妥協無き対応と徹底した指導。

日本的対応とあまりにも差のある凄い対処を日本で品質・ユーザー対応の話を知るといつも思い出します。

社内も含め四面楚歌の中 解決は妥協無きルーツ原因とその対策そして徹底した防止対策のチェック。

その厳しさと理念・思想の強さにほんとうに泣きましたが、この指導性には何度も助けられると共に、日本メーカーの社内の考え方弱さがいつも頭にありました。

現場で働く三菱の技術仲間に 「周りにとらわれず、頑張れ 個別処理と共に本質問題を早くつづせ」 と
つついイーールを送りたくなる。

現場主義の大事さ 本当にその中味を今生かさないと日本の物づくりも つぶされてしまう。

イタリア ルネッサンスで訪ねたフィレンツェで ルネッサンスを引っ張ったレオナルド・ダ・ヴィンチ。
に建築にそして彼の発明・発見の多さ いずれもその一級の巨人ぶり。

その根底に徹底した 科学的眼と現場体験実証主義の生き様 現代に通ずる事を知りました。

「知恵は経験の娘。ただ 想像だけによって

自然と人間との間の通訳者たらんと欲した芸術家連を信じるな」

「自然の不可思議の通訳者は経験である。

自然は原因をもって始まり、実験をもって終わるが、

我々はその反対をとらねばならない。

我々は実験をもって始まり、

実験をもって 原因を探求しなければならない。

そこから、経験と相談しつつ、一般規則を引き出せる」

----- レオナルド・ダ・ヴィンチ



先日 家内とふたりでアメリカ映画「パッション」を見ました。

キリストが密告により訴えられ、十字架にかかる一日を聖書の記述に基づいて制作されたという。

もう スタートから終りまで、キリストひとりが身体的危害を受け続ける。

アメリカで賛否喧喧諤諤だった映画。どちらか言うと最近 日本映画のやさしい映画しか見ない僕にはきつい。行こうという家内に教えたのですが、結局見ました。

もう 本当に 耐えられるか・・・とおもっていましたが、迫力の中 息呑むのも忘れてみました。

耐え続けながら語るキリストの言葉のみがラテン語で字幕

本当にしんどくて街で休憩して帰りましたが、なにかさわやかな気持ちがあるのを感じて我ながらビックリでした。

三菱の技術現場 耐えて 頑張ってください

2004.7.1.

Mutsu Nakanishi

7.

北海道 宗谷 猿払村 海の開拓宣言「いさりの碑」 2004.9.5.



北海道 宗谷 猿払村 道の駅「さるふつ」にある帆立貝の化石と「いさりの碑」 2004.8.1.

北海道 花の美しさもさることながら、この夏 宗谷 猿払村で見た「海の開拓宣言」の格調の高さには感激。「2004 夏 花の北海道 WALK」にも入れましたが、理念の重要性とその理念に基づく実践の確かさにビックリし、金融・政治・工業界において 今「口先」だけの対応が横行する中 プロの対応とは何かを見せられたような気がしたので、ちょっと御紹介します。

ちょうど 私たちと同じ世代の生き様のひとつ どう 感じられるでしょうか・・・

北海道 宗谷 猿払村 海の開拓宣言「いさりの碑」



いさりの碑

帆立貝漁場は成業10周年に当り猿払の漁業のうつりかへりを振り返りて見る。我々の先人がオホーツクの海の魚介類に生活の糧を求めたのは明治の初めのことだ。それから一世紀になんなんとしている。春 4月5日 鯨の群来で海は乳白色になり獲っても獲ってもなくなってしまうと思われた。鮭鱒は海の荒くれ男と力比べをするように網もさけよとばかり来網した。海扇と呼ばれた帆立貝は海の底に幾層にも重なり合っているのではないかと錯覚を起こさせる位生棲していた。しかし之等の生命の運命も貪欲な人間の前には所詮は滅亡の運命が待ち受けていた。今日ではあらゆる資源は有限であることが認識されている。しかし生物資源は自然と人間の適正な育成管理によって永続させることができる筈だ。私達も自然の摂理にかなった生物資源の育成管理を科学的に調査と陣地をあつめてやつてみた。春夏秋冬 自然の摂理は一世紀の昔も今と変わりなく繰り返され生物の生命力は見事に部族と氏族の反映に其の力強さを見せてくれた。今 オホーツクの海は先人の開拓した時のように帆立貝が見事に結実してたわわな実をみせている。鮭鱒もまたまもなくふ化事業の結実を見せようとしている。猿払の海を拓いた多くの先人の苦勞と偉業をしのび其の石を我々も子孫もうけつぎそして実践することを肝に銘じ 今此の碑を立てる

人間は神々と力を競うべきでない
人間は自然の摂理に従うべきだ

昭和56年11月22日
猿払村漁業協同組合

我々の先人はオホーツクの海の魚介類に生活の糧を求めたのは明治の初めのことだ。
それから一世紀になんなんとしている。

春 4月5日 鯨の群来で海は乳白色になり獲っても獲ってもなくなってしまうと思われた。
鮭鱒は海の荒くれ男と力比べをするように網もさけよとばかり来網した
海扇と呼ばれた帆立貝は海の底に幾層にも重なり合っているのではないかと錯覚を起こさせる位生棲していた。

しかし之等の生命の運命も貪欲な人間の前には所詮は滅亡の運命が待ち受けていた。
今日ではあらゆる資源は有限であることが認識されている。

しかし 生物資源は自然と人間の適正な育成管理によって永続させることができる筈だ。
私達も自然の摂理にかなった生物資源の育成管理を科学的に調査と陣地をあつめてやつてみた。

春夏秋冬 自然の摂理は一世紀の昔も今と変わりなく繰り返され生物の生命力は見事に部族と氏族の反映に其の力強さを見せてくれた

今 オホーツクの海は先人の開拓した時のように帆立貝が見事に結実してたわわな実をみせている 鮭鱒もまたまもなくふ化事業の結実を見せようとしている
猿払の海を拓いた多くの先人の苦勞と偉業をしのび其の石を我々も子孫もうけつぎそして実践することを肝に銘じ 今此の碑を立てる

人間は神々と力をきそうべきでない
人間は自然の摂理にしたがうべきだ

昭和 56 年 11 月 22 日
1981.11.22.

猿払村漁業協同組合

注 1980年代は高度成長の真っ只中 1986年から1989年4年間はバブル時代

1980年代の日本は、世界でも有数の工業国として空前の豊かな社会を実現しました。

鉄鋼、家電製品、自動車やエレクトロニクスといった分野の輸出が大幅に伸び、日米で経済摩擦が起きるほどの貿易黒字をこの時代には計上しています。

昭和が終わった1989年を例にとると、この年の貿易黒字は640億ドル、国民総生産(GNP)も約420兆円と初の400兆円台に到達。1980年の290兆円から10年間で130兆円も増えています。

一方では、地球規模でさまざまな環境問題が深刻化し、中でも地球温暖化問題については1980年代後半から議論が開始され、1990年代から世界各国が協力して取り組むようになりました。

何も対策をしないと深刻なダメージを受けるおそれが現実化し始めた時代。

しかし、日本の世相は 1986 年から 1989 年 4 年間はバブル時代と呼ばれる日本が狂った時代でした。

20 世紀の大量生産、大量消費の時代から、21 世紀は地球環境優先への転換の時代 まだ世の中が浮かれている時代に 最北の北海道でこんな格調高い地球環境優先・共生の理念と実践が進んみ 現在も「日本一の帆立貝の猿払」として栽培漁業の先端に立っている。

金融・政治・工業界において 今「口先」だけの知能優先 実践・実学軽視の対応が横行する中 プロの対応とは何かを見せられた気がしています。

当時は自分も新しい事業開発に向かって必死であった時代

それがバブルだったのか 地道な発展だったのか・・・悩むところです

2004.8.1. 北海道 宗谷 猿払で

M. Nakanishi

大阪縄文塾 小山修三氏と佐藤洋一郎氏の対話

8.

縄文の森 火と農耕・森に火をいれる」を聞いて 2004.9.25.

縄文の森と知恵に スローライフを重ねて

自然に火をいれる 火をかけることが悪の時代 本当によいのでしょうか
中国地方で今イノシシが猛烈に増えている・・・なぜ だろう



今 街では厳しく野焼きが規制され、木々から落ちる枯葉も勝手に焼く事ができない。ビニール袋に入れてごみ収集車に出す。

また、自然保護の名目で一切の人の立ち入りも鳥獣の捕獲も厳しく制限されている。

「人の文化・発展は火の文化」と思ってきましたが、火にふれる機会が非常に少なくなっている。

子供たちは自分で火を起こすことも火を使いこなすこともできない。

「ガス栓をひねれば・・・電気のスイッチをひねれば・・・」である。

「火を使いこなし、管理する」ここから多くの技術が生まれ、文化が育まれた。

自然に火をいれる。 火を使う。 これらは 人間社会再生の基本ではないのか・・・

それが今 退化しつつあり、いずれ大きなしっぺ返しをくらうだろうと言われている。

同じようなことは、「物づくり」技術の中でも起こっており、いろんな局面でこんな場面に遭遇する。

社会の成熟化の中で「高度情報化文化の街の生活」に対して「スローライフの生活」に多くの人の視線が注がれて 社会全体の転換点に差し掛かっている。

「そんなもの 物好きな・・・」と笑い飛ばしてはられない・・・



山の斜面の焼畑 焼畑農業で形成された畑の実り(インターネットから採取)

9月22日 大阪縄文塾(山内丸山縄文発信の会)の会合でがあつた。

「自然に火を入れる 火をかけることが悪とされる時代 これが本当にいいのか・・・」と警鐘を鳴らされた。面白かったので紹介します。

小山修三氏と佐藤洋一郎氏の対話「縄文の森 火と農耕・森に火をいれる」より
2004.9.22. 大阪縄文塾(山内丸山縄文発信の会)で

焼畑に対して水耕田 ともすれば焼畑は未開・自然破壊の象徴と我々には映る
でも 10~20年の周期でまわす焼畑。 10年20年ほって置かれる荒地は無用の土地か・・・
そうではなく、ここからは主食は得られないが雑草・雑木がそだち、薬草を取り、木の実・きのこほか さまざまな恵みが得られ、また、そこを目指して動物がやってくる。
森を焼き尽くすのでなく、森を管理し火を放てば新芽が育ち、フレッシュな明るい森の環境が再生する。
食物連鎖の頂点にいる人間にとって実に良い生活の知恵・恵みを与えてくれる場所ではなかったか・・・。
主食としての稲のみに眼を奪われてはならぬという。
トータルで考えると必ずしも焼畑が非能率であるといえぬと・・・
そもそも人が住めるのは縄文の昔から 森林のまっただ中ではない。森の縁/荒地・草地/雑木林そして集落が一体で人のすめる環境が出来た。
その最初は噴火・落雷など自然の中に火が入って出来たところに人が入り、今度は人が火を使って自然環境を管理維持しながら、荒地から栽培植物・二次林を育て、生活を発展させてきたという。ドイツには素晴らしい森があるが、これも産業革命による大量伐採による荒地の中から 再生 出来上がった森という。
人の入らぬ里山は危ない。最近 里山が荒れている。
また、人をシャットアウトすることが自然保護 自然遺産という。
でもそれは違うのではないか・・・と。 昔々おじいさんは 芝刈りに・・・である。



焼畑農業



山焼き インターネットより採取

今 中国山地でイノシシが猛烈に増加しているという。

1960年～2000年に捕獲されたイノシシは兵庫で198539頭 山口で183001頭それ以前から比べると中国山地で激増しているという。(最も捕獲量で言うと鹿児島・宮崎・大分がビッグスリー)

その原因はなにか・・・ 中国山地での急激な過疎の進行と過度の鳥獣保護狩猟禁止が原因のひとつという。

長年にわたって管理維持してきた里山・草地・雑木林はイノシシ繁殖の格好の地 そこで、人が離れ、今イノシシ天国になっている。おまけに狩猟制限・食なし。天敵なしの保護。

もつとシシ鍋をたべねば・・・である。このままであれば、イノシシの繁殖はさらにつづくだろうと言われている。

人の作った里山・集落がいかに住みやすい環境であるか・・・の証拠。

また淘汰されない保護がもたらす弊害の進行である。

縄文の昔日本にも焼畑の時代があったろう。焼畑による陸稲の栽培から水田稲作へ
これにより 爆発する人口を支え 新しい知恵と文化も起こったが、失ったものも多い。
いま そんな眼で新しい視点を見る必要があるのでは・・・

「人間再生・転生の知恵」

話をききながら 今 もてはやされているスローライフの生活の意味を考えていました。

こんな話を聞いて 数日後 朝日新聞に同じ意のこんな記事(抜粋)がありました。

朝日新聞 「私と環境」秋道智彌氏 より 抜粋

田んぼが色づく季節となった。日本の田んぼはかつて森や原野。それを人間が水田に変えた。
カエルやドジョウやトンボが新たな住人となり、畦には色々な雑草も登場する。
カエルの合唱 トンボの乱舞を含めた田んぼの景観を人工物と考える人はいない。
そんな田んぼの生き物や雑草が姿を消してしまった。
自然を取り戻したい。何をどう再生するのか 考えてみたい。
最初から人間の営みを含めて自然の再生や修復を考えてみることに私たちはあまりなれていないのでは
ないか
草地や二次林を半自然 二次的自然と呼ぶことがある。
日本の草地は野焼き放牧などを通じて維持されてきた。人間の介入が草地の生き物を生み、地域の暮らし
を存続させてきた。人間の賢明な攪乱こそが豊かな自然を創造してゆくという新しい自然観を提案したい

(朝日新聞「私と環境」秋道智彌氏 より 要約抜粋)

最近 風来坊的に色々なものに参加するのですが、感じたこと 二題

その一

「老後は趣味の世界で。。。。。」とはよく言いますが、そんな年代になつてきて、暇に任せて 色々な事に出かけています。

でも、趣味の会 いろんな知識が増えて それはそれで楽しいのですが、 ちょっと物足りず。

先日 山内丸山縄文の会の大阪「縄文塾」に参加して、ふっと気がつきました。

「外へ向いて 発信。広がる世界につながっている」との感覚がやっぱり一番ですね。。。。。

そんな目線で色々なものにかかわっていきたいと思っています。

吉野山 蔵王権現のすごいエネルギーと迫力 いろんな世界を認め合う「蔵王権現」神仏融合修験の世界もそんな感じと。。。

その二

先日九州への古代遺跡のツアーでの出来事

乗った鹿児島から宮崎への JR 特急が 約 10 分遅れて 駅前からでる路線バスに間に合わず。路線バス以降の計画メチャクチャに。。。

汽車の中から JR・バス会社に連絡取るも埒開かず。結局路線バスはだめ。次は一時間待たねばならぬ。

たった十分の想いがバス会社に向く。バス会社にいわく。

「こんな 特急 遅れのこと よくあるだろう 20 数名も乗り遅れ。

どないするか 危険予知もつとしておいて。。。」と。

でも 考えてみたら 危険予知 必要なのは どっち。。。。

「10 分の乗り継ぎ 遅れた場合の対処は。。。」

どうも 年寄り特有の「自己チュー」が 都会人の地方に対する「エゴ」か。。。。。。

タクシーに乗って ふっと我に帰って みんな笑いあったのですが。。。

自分も年寄りの自己チューの仲間入り 心せねば。。。

by M. Nakanishi 2004.11.5.